【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第５区分
【発行日】令和6年6月17日(2024.6.17)

【国際公開番号】WO2023/053224
【出願番号】特願2023-550807(P2023-550807)
【国際特許分類】
Ｂ６２Ｋ 19/38(2006.01)
Ｂ６２Ｌ　3/02(2006.01)
Ｂ６０Ｔ 11/04(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６２Ｋ 19/38
Ｂ６２Ｌ　3/02　　Ｆ
Ｂ６０Ｔ 11/04

【手続補正書】
【提出日】令和6年3月28日(2024.3.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
操向ハンドル（２１）に取り付けられると共に後輪ブレーキ（９１）を作動させるブレーキケーブル（７７）を有する鞍乗型車両（１０）において、
前記ブレーキケーブル（７７）が、車幅方向の中央より左右いずれか一方のみに配索され、
前記ブレーキケーブル（７７）の中間部が、燃料タンク（２９）に設けられた固定部（２９ａ）に支持され、
前記ブレーキケーブル（７７）は、前記車体フレーム（１１）より下方で前記固定部（２９ａ）に支持され、
前記燃料タンク（２９）の下面に、前記車体フレーム（１１）を跨ぐための凹部が形成され、
前記凹部の車幅方向右側の壁面に前記固定部（２９ａ）が設けられており、
前記凹部の車幅方向右側の壁面に前記固定部が設けられていることを特徴とする請求項１に記載の鞍乗型車両。
【請求項２】
前記ブレーキケーブル（７７）の後端部が、ピリオンステップ（５０）に支持されることを特徴とする請求項１に記載の鞍乗型車両。
【請求項３】
前記ブレーキケーブル（７７）が、前記燃料タンク（２９）の内側と連続して、シート（１７）の裏側を通り、前記後輪ブレーキ（９１）を作動させるブレーキペダル（４９）につながるように配索されることを特徴とする請求項１または２に記載の鞍乗型車両。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】

特許文献１には、前後連動ブレーキを適用する鞍乗型車両において、車体の前部から後部にかけてブレーキケーブルを配索した構成が開示されている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
しかし、特許文献１の鞍乗型車両では、ブレーキケーブルが左右の操向ハンドルを跨ぐように配索されているほか、エンジンの側方を通るように配索されており、工場での組立性や外観性の向上を図るためには依然として工夫の余地があった。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明の目的は、上記従来技術の課題を解決し、ブレーキケーブルの配索構造の工夫により組立性や外観性を向上できる鞍乗型車両を提供することにある。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
前記目的を達成するために、本発明は、操向ハンドル（２１）に取り付けられると共に後輪ブレーキ（９１）を作動させるブレーキケーブル（７７）を有する鞍乗型車両（１０）において、前記ブレーキケーブル（７７）が、車幅方向の中央より左右いずれか一方のみに配索される点に第１の特徴がある。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
第１の特徴によれば、操向ハンドル（２１）に取り付けられると共に後輪ブレーキ（９１）を作動させるブレーキケーブル（７７）を有する鞍乗型車両（１０）において、前記ブレーキケーブル（７７）が、車幅方向の中央より左右いずれか一方のみに配索されるので、ブレーキケーブルの配索が容易になることで、工場での組み立て作業が容易になる。また、メンテナンス性を向上させることが可能となる。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
第２の特徴によれば、前記ブレーキケーブル（７７）の中間部が、燃料タンク（２９）に設けられた固定部（２９ａ）に支持されるので、燃料タンク付近のデッドスペースを有効活用でき、レイアウトの自由度を向上させることができる。また、ブレーキケーブルを燃料タンクの内側に隠れるように配索することで、鞍乗型車両の外観性を向上させること

ができる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
ブレーキレバー７３には、作動液を圧送するマスタシリンダ７４が接続される。マスタシリンダ７４に固定される保持部材には、ブレーキケーブル７７が接続される。ブレーキホース７５およびブレーキケーブル７７は、フロントカバー４５の内側に配索された後、自動二輪車１０の車幅方向右側にまとめられる。ブレーキホース７５は、前輪ブレーキ５０に接続される。ブレーキケーブル７７は、後方に向かって配索されて、後輪ブレーキ９１を作動させるブレーキペダル４９に接続される。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
ブレーキホース７５およびブレーキケーブル７７は、不図示の結束バンドで束ねられて、トップブリッジ３１とフロントカバー４５との隙間からフロントカバー４５の内側に配索される。ブレーキホース７５およびブレーキケーブル７７は、フロントカバー４５の内側に配索された後、自動二輪車１の車幅方向右側にまとめて配置される。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
図２は、自動二輪車１を車幅方向右側上方から見た斜視図である。また、図３は図２の一部拡大図である。図２では、燃料タンク２９を取り外した状態を示している。本実施形態では、ブレーキケーブル７７が車幅方向の中央より右側のみ、換言すれば、車体の中心線より車幅方向右側のみに配索される点に特徴がある。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
ブレーキケーブル７７は、トップブリッジ３１とフロントカバー４５との隙間からフロントカバー４５の内側を通った後、燃料タンク２９やシート１７に隠された状態でフロントフレーム１９の車幅方向右側を通って後方に伸び、サイドカバー４７の後方で下方に湾曲してから、車幅方向右側のリヤブレーキペダル４９に向かって伸びる。この構成において、ブレーキケーブル７７は、常に車体の車幅方向右側にのみ存在する。これにより、ブレーキケーブル７７の配索作業が容易になると共に、メンテナンス性が向上する。また、車体外方からブレーキケーブル７７が視認される部分が少なく、自動二輪車１０の外観性も向上する。
【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
なお、自動二輪車の形態、前後連動ブレーキの構成、ピリオンステップの形状や構造、ブレーキケーブルの長さや取り回し経路等は、上記実施形態に限られず、種々の変更が可能である。例えば、ブレーキケーブルは、車体の中心に対して車幅方向左側にのみ配索してもよい。本発明に係るブレーキケーブルの配索方法は、自動二輪車に限られず、鞍乗型の三輪車や四輪車等に適用することが可能である。